



## コロナ禍での運動会の変化

帝京大学小学校 校長 石井 卓之

10月23日(土)、運動会を秋の日差しが降り注ぐ中、実施することができました。聞くところによると、帝京大学小学校で晴れて実施できたのは久しぶりとのことでした。(私はたまたま、40年近く運動会に関わった中で、雨での順延は2回だったと思います。他の行事は雨もありますが、不思議と運動会だけは晴れます。)

外国の方と話している中で、説明に困る行事の一つに運動会があります。同時に、なぜ日本では運動するときに赤や白の帽子を被るのかという質問もよく受けます。運動会が他国にはない日本独自の行事だとは、考えてもみませんでした。説明するために、運動会の歴史を調べたことがありました。初めて実施された運動会は、1874年(明治7年)3月、東京の海軍兵学寮でイギリス人教官の指導のもとに行われた「競闘遊技会」とされています。徒競走や砲丸投げ、終わりの方には「豚追い競争」という笑いを誘う競技もあったといえます。その後いろいろな変遷があり、現在の形式になったようです。

本校の今回の運動会には、いくつか今までにない取り組みがありました。それはコロナ感染症を踏まえた対応の中から生れた、新たな運動会への胎動ともいえます。

### ① zoomやタブレット等の活用

応援団は各色で振り付けや応援の仕方を工夫しました。また、できるだけ声を出さない応援となるように鳴り物を取り入れました。応援や表現の練習では、積極的に映像資料が使われていました。集合しての練習に加え、応援の仕方や動きを撮影した動画を各教室の電子黒板に映し出し、それを見ながら練習を行っていました。低学年は休み時間や課題が終わった時間に表現の動きを電子黒板に映して練習を進めていました。iPadを活用している学年もありました。新しい練習方法であり、有効性を感じました。

### ② 午前中だけのプログラムで実施

できるだけ密を避け、会食による感染リスクを回避するために、午前中だけの実施としました。そのため、6年生以外の学年の団体種目を別日に行い、その結果を運動会当日の得点に加算しました。また、1・2年、3・4年、5・6年の走種目を連続して行い、用具準備や片付けの時間を省き、時間の短縮化を図りました。さらに、入退場に時間をかけない工夫や開閉会式の精選も行いました。団体種目では、子どもたちが作戦を立てる時間を確保し、自分たちで勝ち方を考える「思考」を大切にしたい取り組みとなるようにしました。

### ③ 表現では、練習時間の縮減と教え合いの活性化

表現では、教師主導で見栄えを高めるために時間を使うのではなく、上学年が下学年にコツを教えることを大切にしました。その中こそ、協働学習のよさがあります。

今後、コロナ感染症の状況がどのようになっていくのかは、まだまだ不透明です。しかし、本年度の取り組みで活かせるものは継続し、より子どもたちが「考え、創り出せる運動会」となるように、チーム帝京小で取り組みを進めていきます。

